DX推進

DX推進の取組み

中期経営計画の重点施策の一つとして「あらゆる場面でデジタル技術を活用した業務変革（DX）を推進」を掲げています。そこで、製造業の中核である研究、生産を中心に、営業、間接業務、デジタル人財育成の5つの分野を重点にDXを推進しています。

DX推進の体制としては、2020年にDX専門組織を設立し、2023年以降は情報システム部DX企画課にて専任者を配置し、継続的にDX推進に取り組んでいます。DX企画課は全社横断の推進役として、各部門のDX施策に伴走し、課題の整理や情報共有、共通基盤の整備・導入支援を通じて部門間連携を促進しています。さらに、基盤コア技術研究所内にインフォマティクスの専門チームを設置し、マテリアルズインフォマティクス（MI）や計算科学による研究開発支援を実施しています。生産部門では、生産技術革新センターを中心にデジタル化や自動化も推進しており、これらの組織が連携して全社DXを進めています。

生産DX	●スマートファクトリー実現
研究DX	●マテリアルズインフォマティクス計算科学による開発促進
営業DX	●デジタルマーケティングによる顧客接点強化、SFA活用
業務DX	●全社プロジェクトによる業務革新 ●企業変革の推進
人財育成	●生成AIの活用人財育成 ●デジタルリテラシー向上

DX環境の整備

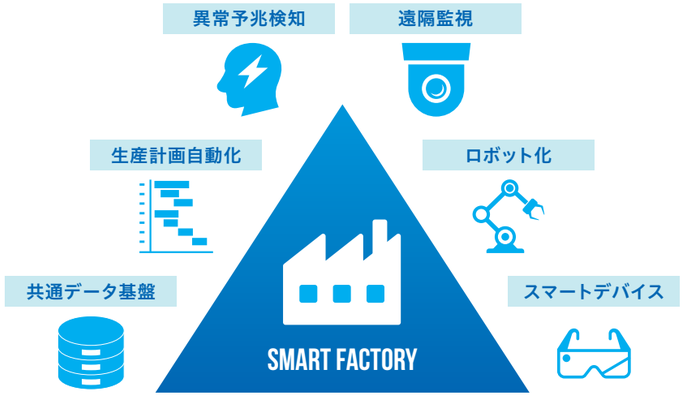
DX戦略の推進に必要なITシステム環境の整備として、基幹システムの更新を進めており、間接業務の効率化に取り組んでいます。また、全社PCの更新とWindows11への移行が完了し、セキュリティや操作性の向上を図っています。さらに、コラボレーションツールについてはレガシーシステムからMicrosoft 365への移行を進めており、クラウドサービスの活用による業務効率化とデータ連携の強化が期待されます。これらの施策を通じて、DX推進に必要なIT基盤の整備と、継続的な環境改善に取り組んでいます。

DXの達成指標

DXは中期経営計画の重点施策として位置付けられており、2028年の営業利益目標180億円の達成に向けて、生産・品質管理、研究開発、間接業務などあらゆる場面でDXを推進し、収益性の向上を図っていきます。進捗および達成度については、①スマートファクトリー化（生産性・品質・コスト）、②研究開発におけるデジタル活用（スピード・高度化）、③業務効率化（基幹システム更新を含む）の3領域でKPI等を段階的に設定し、定期的にモニタリングをします。

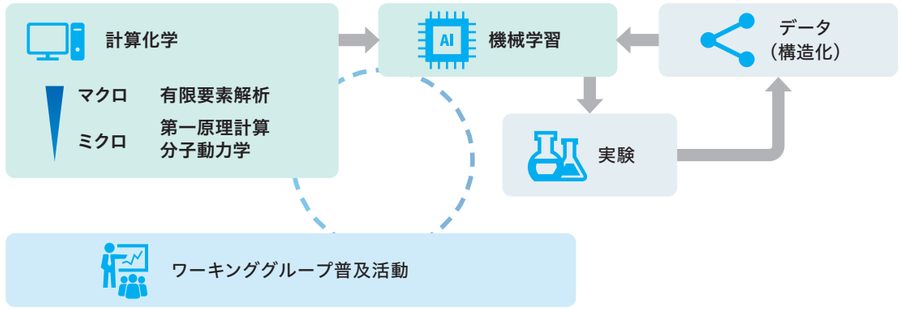
生産DX

デジタル化と自動化を中心に、高収益・安全・安定なスマートファクトリーの実現を目指し、DXを推進しています。情報の見える化や自働化、操業技術の高度化をDXの主要な目的とし、具体的には生産計画の自動化、異常予兆検知システムの導入、ロボットによる作業の自動化、工場統合監視などに取り組んでいます。これらの施策を通じて生産現場の効率化と品質向上、安全性の強化を図ります。



研究DX

研究開発では、マテリアルズインフォマティクス（MI）を推進しています。計算科学は従来のミクロ（第一原理計算、分子動力学）からマクロ（有限要素解析）まで拡張し、実験データや過去の知見等を含むデータの構造化支援にも取り組んでいます。また、これらのデータを解析・モデル化し、有望条件の探索や優先度付けなどに活用することで、研究品質の向上および開発期間の短縮につなげています。さらに、ワーキンググループによるMI・計算科学の普及活動を継続的に行い、研究開発の効率化を図っています。



業務DX

社内生成AIシステム「Chatoa」は、現在では6割以上の従業員が利用しており、アイデア出しや情報確認、ドキュメント作成など幅広い業務で効率化に寄与しています。さらに、「文字起こし&議事録生成AI」を新たに導入し、会議や打ち合わせの議事録作成効率化とアクションの明確化による業務迅速化を実現しています。今後も機能拡充を進め、さらなる生産性向上を目指します。

人財育成

求める人財像を「データとデジタル（生成AIを含む）で業務課題を解決し、変革を推進できる人財」と定義し、重点領域を①データ／AIリテラシー、②業務プロセス改善、③変革推進力としています。この方針のもと、全従業員を対象としたデジタル人財育成プログラムを継続しつつ、生成AI活用を実践的に学ぶワークショップ「スキルアップラボ」を全社的に開催し、生成AIの活用を促進しました。さらに、デジタル活用アセスメントを実施し、従業員の成長意欲やデジタル活用の実践状況は良好で、組織の推進力に課題があることが判りました。これらの結果を今後の施策に生かし、DX推進の鍵となるデジタル人財の育成をさらに強化していきます。

従業員の成長意欲	デジタル活用の実践状況	組織の推進力
72点	66点	60点